

本命・今洋佑衆議の突然 札幌市長選は伴^良隆、 3氏+「α」の闘い

辞退で大混迷！ 入澤^拓也、荒井^優



▲伴良隆氏

「報道関係者から連絡が入り、驚いた。お盆に今氏と名刺交換した時は、本人はやる気満々だったのに…」
こう振り返るのは、自民党札幌連総務会副会長の吉田祐樹道議（自民党道連幹事長）だ。
吉田道議が高木宏壽事務所で今氏と初めて挨拶を交わしたのが8



▲入澤拓也氏

「山崎先生から強い反対があつたのだと思う」と説明する。
今氏の辞退はまさに電撃だったが、「今氏は絶対に出馬を受けない」との情報を誰よりも早く入手していたのが、自民党札幌連会長の三上洋右札幌市議だった。
今氏は衆院選で落選の憂き目を経験し、今年の衆院選で比例最下位で救われた。仮に札幌市長選で落選したら衆議に帰れる保証はどこにもない。
三上氏は、説明する。



▲荒井優氏

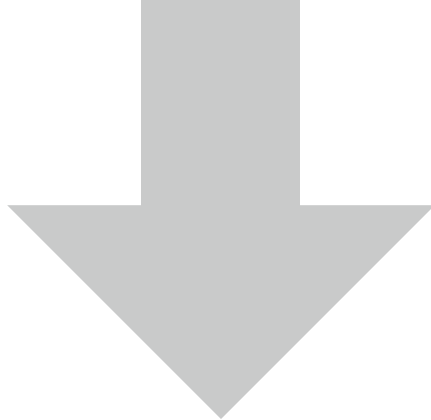
「『今さんは、大丈夫か』と念を押したら中村衆議は『いや、OKだから』と。それで『土壇場で辞退したら、取り返しのつかないことになるですよ』と申し上げた」
三上氏が懸念した事態になったわけだが、それにしても今氏は辞退する前に前出・山崎氏と党選対委員長西村康稔氏に出馬の挨拶をしている。仁義を切った後の翻意は、党本部との関係から首を傾げるムキも多いのだ。
さらに辞退の最大の理由としてまことしや

ウラに「カネ」の問題？

「報道関係者から連絡が入り、驚いた。お盆に今氏と名刺交換した時は、本人はやる気満々だったのに…」
こう振り返るのは、自民党札幌連総務会副会長の吉田祐樹道議（自民党道連幹事長）だ。
吉田道議が高木宏壽事務所で今氏と初めて挨拶を交わしたのが8

「と、意気揚々と語ったという。」
今氏は札幌市出身。岩見沢東高、東京大学工学部卒。内閣府に13年間勤務、その後福井県大野市の副市長を2年間務め、24年10月の衆院選で自民党公認で北陸信越ブロックから出馬したが落選、今年2月の衆院選で初当選した（比例単独・名簿登載順位最下位）。
今氏の擁立に動いたのが中村衆議で、「1区」から「5区」の他の衆議もそれに賛同した。その中村衆議に今氏本人から電撃辞退の1報があつたのが8月22日の夕方だった。内容は「福井のご縁をないがしろにできないという決断で、今回福井に残ることにしました」

来春行われる札幌市長選で共産党を除く候補の顔ぶれがほぼ決まり、闘いの構図が明らかになってきた。
自民党からは伴良隆（48）、無所属の入澤拓也（46）、同じく無所属の荒井優（51）の3氏である。
自民党にとって今回の市長選で想定外だったのが本命と目されていた今洋佑氏（43）の突然の出馬辞退。そして現職の秋元克広市長（70）の不出馬だった。そこで今氏辞退と候補擁立の舞台裏に迫る――。



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから
TEL 011-644-0101
(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)